

令和5年度 江戸川区立松江第一中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○思いやりをもち、協力し合い豊かな心を培う ○進んで学習に励み、がんばりぬぐ力を身につけさせる ○正しく、厳しく、美しく、生涯の基を築く 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が夢や目標に向かって邁進する学校 保護者や地域から信頼され、頼られる学校 教職員が生徒のために力を発揮できる学校 ○思いやりをもち、互いに協力し合い、豊かな人間関係を築ける生徒 主体的に学び、事故の将来をしっかりと考えられる生徒 困難に負けない、強く健康な心と身体を持った生徒 ○生徒とともに喜びを感じることのできる教職員 使命感をもち、信頼される言動がとれる教職員 日々の実践と主体的に研修を行い、自らを向上させる教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>授業アンケートの結果、多くの授業で「授業がよくわかる」90%を達成した。授業規律も維持できおり落ち着いた学習環境を整備できた。学校図書館を利用することで、探究的な学習活動が実施できた。エンカレッジルームの環境整備を充実させたり、デジタル機器を利用することで、不登校生徒に登校を促すことができた。 <課題>教職員が「運動意欲の向上」に向けて研修などを重ねているが、体力調査のいくつかの項目では、都の水準に達していたなかった。文科省の定義による不登校生徒数については依然として多い数となっている。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		次年度に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得とともに、自らの興味・関心によって主体的に学習に取り組む態度の育成 ・家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰一人取り残さないための学力向上に向けたアクションプラン」を計画的に進める。 ・生徒用のデジタル教科書を配備し、授業の予習や復習にも活用する。個別最適な学びへの一人一台端末の活用を促す。 ・放課後補習教室を希望する生徒が、可能な限り参加できるように調整をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート回答「授業がよくわかる」 「授業がわかる」の合計が90% ・各学年で授業がある日の9割で授業配信「江戸川っ子studyweek」で電子ドリル等に取り組む生徒数を半数以上にする。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの結果、多くの授業で「授業がよくわかる」が90%を達成した。授業規律の徹底もできた。また平日の家庭学習を毎日1時間以上行うことが出来た生徒の割合は50%以上であった。 ・「江戸川っ子studyweek!」利用強化期間を定期考査期間中に設定した。約半数の生徒が取り組んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートを実施。「お子さんが授業が分かりやすいと感じている」と「1人1台端末を活用している」という質問に対し60%以上で好意的な回答を得ていたようである。 ・「お子様は学校に行くことを楽しんでいる」と言うのに対し80%近いの保護者が好意的な回答をしていた。校内も大変落ち着いており、授業規律が維持されている状態である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の利用は教科によって差が大きい。1人1台端末の更なる活用のため授業や家庭学習などでの利用を促す。 ・生徒の学力向上に向けて、全国学力・学習調査の結果の分析を行い、それらを基に教職員の授業改善を推進する。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の整備を区立図書館司書と計画的に進める。 ・図書館司書による「図書館の使い方授業」の実施する。 ・PTAの協力を得ることで、学校図書館の開設時間を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で成果物を1つ以上作成する。 ・図書紹介 年間1時間以上確保 ・朝読書を21時間、14回の1単位時間 合計35時間分の読書科の授業を実施 ・都学力調査(国語) 都平均以上にする。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの結果、年間10冊以上の本を読書している割合は25%以上いた ・クラスにおけるブックトークや図書委員会の活動を中心とした書籍の紹介を行った。 ・校外学習などの事後学習で書籍を活用することで探求的な学習を実施した。一人ずつ1枚のプリントにまとめたが、見る人がわかりやすい内容になるよう工夫した生徒が多かった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートでは「お子様は読書に親しんでいる」に対して「あまりではない」「あてはまらない」の回答が60%以上であった。今後改善していく課題である。 ・毎週水曜日に、PTAの協力により図書館開放を実施している。生徒への周知今後も継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書管理システム(バーコード化)が導入された。図書館の貸し借りの利便性が向上するので、図書館の更なる利用促進を図りたい。 ・読書科の「探求的な学習」をどのように進めていくのかについて、進路学習部を中心として検討する。指導を組織的・計画的に実施していく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上を促すために、体育の授業前に補助運動を必ず実施する。 ・全国や東京都の体力調査結果を分析し、生徒にとって伸ばすべき能力について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力調査 都の平均以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートから、体力向上に意欲的に取り組んでいる生徒の割合は65%以上である。 ・体力調査において男女とも都の平均を下回っており、なかなか結果が表れてこな 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・保護者の立場から見ても体力低下が深刻であると危機感を感じる。今後の積極的な体力向上の取り組みを期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前の補助運動を重点的にを行い、生徒の基礎的な体力向上を目指す。以前の自分の記録と比較することで、成長を実感できるように工夫していく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・都の「不登校児童・生徒支援調査研究事業」の対象校として2年目を迎えるにあたり、エンカレッジルームの設備や運用方法をさらに充実させることで、不登校生徒への支援を拡充する。 ・生徒に向けて障がい者やLGBTQへの理解、多様性を理解する教育を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校理解を深める職員への研修を年に1回以上実施 ・障がいや体験する授業を各学年で実施 ・1学年 アイマスク体験(5月) ・2学年 手話体験(12月) ・3学年 点字体験(3月) ・多様性を理解する講演会(11月) 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して不登校に関わる研修や勉強会を実施し、教職員や保護者理解を深めた。 ・多様性を理解する授業として、11月にLGBTQ当事者の講演会を実施した。次年度も予定されている体験や講演会を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時間差で登校する生徒がいる聞いている。また給食の配膳などで交流をしているとの話を聞いていると、不登校について校内やクラスでもさらに理解が進んでいくことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の研究指定校は終了したが、「持続可能な不登校生徒への支援」を模索していく。ERの活用のみならず発達支持的生徒理解を推進していく。またER利用の生徒たちが、各種行事へ可能な限り参加させることで学校への帰属意識を醸成する。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラーの早期発見に必要な対応をする。実際に支援が必要と思われる事案にはSCやSSWなど関係機関と連携し多方面から生徒への働きかけを行う。 ・生徒やクラスの状況についての理解を深めるためhyper-QUを実施し、その結果を分析することで生徒にとってより良い学校生活への改善に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生と担任の面談を1回設定し、ヤングケアラーについての聞き取りを行う。必要と判断すれば2回目の面談も実施する。 ・hyper-QUを年に2回実施する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期中に1年生と担任との面談を実施した。ヤングケアラーについて啓蒙活動も実施した。 ・hyper-QUを年間2回実施した。結果を分析、共有することで、クラス運営上の問題点に発見し対応するようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体が落ち着いていることで、安心して登校させることができる学校だと思う。 ・スクールカウンセラーを利用する生徒も多いため、不安や悩みをもつ生徒に可能な限り寄り添ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラーについては、生徒の様子に常にアンテナを張り、早期発見、早期対応に心がける。SSWや児相などの関係機関と連携を深めていく。 ・Hyper-QUはそれぞれのクラスにおける生徒理解に有効である。生徒が満足できる学校生活を送るためにはどのような支援や改善が必要なのかについて協議する。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	本校の教育課程関連資料やいじめ基本方針をHPに掲載し、地域・社会に開かれた学校の実現を目指す。また生徒の日常の教育活動を可能な限りアップすることで、保護者や地域の皆様に本校の教育活動への理解を深めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や学校での出来事を紹介することために週に1回以上は学校HPの更新を行う。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回以上の学校HPの更新を実施できている。今後もさらに充実していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・給食のメニューや行事の様子が更新されています。わかりやすいホームページだと思う。 ・学校行事についても、もっと細かに写真付きでタイムリーに更新してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は可能な範囲で写真で記録を残す。それらをホームページにアップすることで情報発信を行う。その際、生徒の個人情報には充分注意をする。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	松江一中のみならず、近隣の小学校・及び都立学校の学校関係者を募集し、各校の教育諸問題における意見交換会を実施する。(参加者は、教職員、PTA、評議員、同窓会、近隣自治会、保護司、民生指導員、青少年委員など)	・学校関係者による意見交換会を年間2回実施する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・7月と12月の2回、近隣小学校や特別支援学校、自治会、PTAなどを交えた協議会を実施した。松江船堀地区に関する様々な情報交換を行うことで連携を深めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・松江一に関わっている様々な立場の方々で、情報交換をすることは重要である。他学校や近隣自治会の様子を知ることができた。地域との連携に有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣校や自治会の方々の意見を通して本校の改善点も明らかになった部分もあった。学校だけでは気づきにくい部分もあり大変貴重な意見であった。今後学校をより良くするため積極的に改善をしていきたい。
	<地域行事の継承> ・規模や内容の変更にあわせて、地域へ協力していく。	参加人数やその内容について検討しながら、地域への行事へ積極的に参加する。	・4月下旬と11月下旬に蓮植え・蓮堀りを計画する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4月と11月の2回、本校にある蓮池で「蓮植え」「蓮堀り」を実施した。生徒のボランティア参加や吹奏楽部の記念演奏などがあり盛況であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒ボランティアのみならず、PTAのOBや以前勤務されていた先生方も集まり盛大に開催することができた。今後も継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の伝統行事を継承しつつ、その時代にあつた運営方法について協議を重ねていきたい。
特色ある教育の展開	<学校における働き方改革プラン> ・学校における働き方改革プランに基づく取り組みの実施	生徒の出欠席の連絡を「Tetoru」を用いることで業務負担を軽減する。朝の伝達事項をC4thの連絡掲示板等を使用することで朝会の時間を短縮させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝全体打ち合わせを3分以内に終わらせる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝全体打ち合わせは、特別な連絡がある場合を除いて、3分以内に終了することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の欠席連絡がtetoruでできることは、保護者にとって負担が減ってよかったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のICT化はまだ道半ばであり、業務軽減の可能性は多くの場面にある。ICT支援員を活用することで、働き方改革を推進する。